

ドラマティック日本史 第4弾

「敵を憎んで人を憎まず」

～楠木正成、正行親子～

講師：玉田 玉秀斎 先生

日時：2月9日（月）10：00～11：40



■楠木正成の幼年時代

源平藤橘の「橘」の出で、赤坂城主の父親・正遠が他の橘と区別するために、大手先にあった楠をもって氏とした。母親は信貴山の毘沙門天に百日参詣した。毘沙門天の別名は多聞天、多くの武門を率いた。幼名は多門丸。

■その後

河内国・槇尾山観心寺で学問修行～・・・「後醍醐天皇と楠木正成の間に伝説」がある。天皇が笠置山に身を寄せていた時に“南へ枝を伸ばした大木の下に上座がある”と夢を見て、これをきっかけに正成との出会いがあった。太平記

◆後醍醐天皇は隠岐の島へ流罪

◆楠木正成は赤坂城へ

護良親王：大塔宮に呼応し、赤坂城を取り返す。

◆楠家家伝

帝を助け、朝敵を滅ぼしたくなる。

護良親王より使者を賜り、武勇天下に認められる。

北条を滅ぼし、帝を安んぜられる。

君に忠義を尽くし天下を一つに統べられる。

◆赤坂城に向かった関東方

関東側は天王寺にやってきたが、もう楠木の軍勢はいない。夜になると、山野、海岸に何万という篝火、闇の声、陣太鼓：夜討ちか思い・・・七日、寝れずに京都へ帰還

◆北条方 千早城へ 楠木方は

北条方は赤坂城、大塔宮の吉野を攻め落とし、最後の千早城へ。総攻撃するが、大木、大石、糞尿、熱湯、煮え油で前に進めない。「釣り堀の罟」楠木方は、籠城。修験者の水道、水樽、兵糧も大量に用意して、真夜中、敵から奪った使い物にならない鎧兜を蠟人形につける。北条方の兵糧を奪い逆に兵糧攻めする。

●その後の歴史経緯

新田義貞は仮病で帰国～足利高氏も離脱。赤松円心は北条に旗揚げ。後醍醐天皇は隠岐の島を脱出。千早城を攻めて三か月後に鎌倉幕府は滅亡した。

建武の新政→政治の中心は公家→武士たちの不満が爆発→足利尊氏の挙兵

湊川の戦い

足利尊氏氏との対立が本格化、楠木正成は湊川の戦いに臨むが敗北する。捕らえられる前に自害することで主君への忠誠を貫いた。

櫻井の別れ

楠木正成、息子・正行にまつわる有名なイピソードある。

落合直文作詞、奥山朝恭作曲を全員で合唱した。1～6番

♪青葉茂れる櫻井の 里のわたりの夕まぐれ

木の下蔭に駒とめて 世の行く末をつくづくと

忍ぶ鎧の袖の上に 散るは涙かはた露か♪

